

(別冊 1) 平成 29 年度 熊本市エイズ総合対策報告書

平成 29 年度
各団体での取り組みについて

平成 30 年 3 月

熊本市保健所 感染症対策課

各団体での取り組みについて

目次

平成 29 年度 熊本市エイズ総合対策推進会議 委員名簿

I 各団体における取り組みの実施状況について・・・・・・・・・・ 1

II 各委員からのご意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

熊本市エイズ総合対策推進会議委員名簿

H. 29. 8. 1 現在

	構 成	氏 名	所 属
1	学識経験者	まつした しゅうぞう 松下 修三	熊本大学エイズ学研究センター 教授
2		まえだ ひとみ 前田 ひとみ	熊本大学大学院生命科学研究部 教授
3		やまなし やち子 山梨 八重子	熊本大学教育学部 教授
4	保健・ 医療関係	すぎの しげと 杉野 茂人	熊本市医師会 理事
5		たなか やおき 田中 弥興	熊本市歯科医師会 副会長
6		まるめ しんいち (新) 丸目 新一	熊本市薬剤師会 会長
7		おしむら けいこ 吉村 圭子	熊本県看護協会 理事
8		しいば ひろあき 椎葉 浩亮	熊本県栄養士会 熊本市地域事業部副部長
9	教育・ 青少年団体	きとう ひろかず (新) 佐藤 弘一	熊本県公立高等学校PTA連合会 会長
10		はまさき ちえ 濱崎 千恵	熊本県私立中学高等学校保護者会 副会長
11		なつき りょう (新) 夏木 良博	熊本市PTA協議会 副会長
12		もりやま ひろこ 森山 弘子	熊本市青少年健全育成連絡協議会 副会長
13		いまむら ゆき (新) 今村 由紀	熊本県高等学校保健会 理事
14	人権擁護関係	まるずみ ともえ 丸住 朋枝	熊本県弁護士会 弁護士
15		おしむら じょうじ 吉村 譲二	熊本市民生委員児童委員協議会 理事
16	企業関係	かわた まさひと 川田 晃仁	熊本商工会議所 総務部総務企画課 課長
17	労働団体	しまさき はるか 嶋崎 遥	連合熊本地域協議会 青年女性連絡会事務局次長
18	報道関係	しかもと なると (新) 鹿本 成人	熊本日日新聞社 編集局文化生活部編集委員
19	ボランティア	しがき みち 紫垣 美恵	熊本市食生活改善推進員協議会 副会長
20	団体関係	かわぐち こう蔵 川口 弘蔵	Safety Blanket 代表

※任期 平成 28 年 8 月 1 日～30 年 7 月 31 日

(新任委員 5 名は 平成 29 年 8 月 1 日～30 年 7 月 31 日)

I 各団体における取り組みの実施状況について

【保健・医療関係】

■熊本市医師会

- (1) 医師会員に対して通年行われている「学術アーベント」や「リフレッシュコース」等の講演会において、医師会員への啓発を継続する。
- (2) 毎年行われてきた熊本市の委託事業「熊本市民健康フェスティバル」は、熊本地震後中断しているが、「健康教育講座」、本会のテレビ広報番組「TKU医療大百科」において、性感染症やエイズに関する情報提供を継続して行う。
- (3) 本会広報誌「森都医報」に本会議の報告記事を掲載し（2017 年 6 月号）、エイズ・STD診療の重要性を喚起した。 ※P 2 参照

■熊本市歯科医師会

- (1) 会議出席後、本会理事会に会議報告を提出。 ※P 3 参照
- (2) 毎月発行の会員への「かわら版」にて診療時の注意喚起。

■熊本県看護協会

- (1) 今年度実施の性教育「出前講座」
熊本県看護協会では熊本県全域を対象に小・中・高校向け「性教育出前授業」を実施しているが、今年度、熊本市内の学校からの依頼はなかった
「今年度実施先」
小学校： 1 校
中学校： 13 校
高 校： 5 校
計 19 校（20 回実施：同じ学校で学年別に 2 度実施）
- (2) 熊本県性教育研究会定例会出席
2 月 9 日開催 九州ブロック性教育研究大会に運営委員として参加
- (3) 1 2 月 世界エイズデーにはポスター等掲示し、啓発活動実施

平成28年度熊本市エイズ総合対策推進会議

担当理事 杉 野 茂 人

熊本市エイズ総合対策推進会議（会長：松下修三熊本大学エイズ学研究センター教授、医療、PTA、教育関係者他各界より委員20人）が平成29年2月7日（火）にウェルパルクまもとにて開催された。本会議はエイズの正しい知識の普及啓発、エイズに対する偏見や差別のないまちづくりに寄与することを目的とし、平成8年より毎年開催されている。

冒頭の会長による基調講演では、HIV/AIDS 感染症治療の歴史と進歩について、そしてエイズ予防指針の3本柱（普及啓発および教育、検査・相談体制の充実、医療の提供・診療体制）について概説された。また全国の平成27年度の新規 HIV 感染者報告数は1,006件（昨年1,091件）とやや減少、新規 AIDS 患者報告数は428件（昨年454件）とやはりやや減少傾向との結果を報告された。しかし熊本県での報告数は平成28年度の新規 HIV 感染者報告数は14件（昨年3件）、新規 AIDS 患者報告数は5件（昨年3件）と逆に増加傾向である。しかし、これは潜在している感染者が熊本県での保健所検査で見つかる方が増えてきていると考えられ、保健所で安心して検査が受けられることがリスクリスクグループの方々に伝わってきた実績を顕す結果ではないかと述べられた。

次に熊本市感染症対策課から HIV 感染および性感染症の予防対策事業について報告があった。熊本市内の保健所で平成28年度に HIV 検査を受けた件数は856件（昨年1,599件）と激減したが、

熊本地震で4月15日から8月31日まで検査を休止した影響が大きかった。その内容は、通常検査228件、即日検査が628件で、やはり利便性の高い即日検査のニーズが高まっているとの分析であった。今後の目標件数を平成29年に1,780件として、①予約不要の休日検査を年2回（6月、12月）実施②メールによる予約受付で検査数を増やしていきたいとの報告がなされた。

トピックスとして熊本大学医学部附属病院地域医療連携センターの看護師長 井原国代氏に「HIV/AIDS 患者の地域での療養支援への取り組み」という演題で講演頂いた。患者さんは一生薬を飲まないといけないし、色々なバックグラウンドを抱えているから、生活の支援が非常に重要になる。長期療養が大事で、患者さんのフォローアップも“薬を出して注射して終わり”ではない。熊本大学医学部附属病院でも地域連携に力を入れており、平成27年4月からエイズ患者の地域での療養支援への取り組みや、医療関係者・教育関係者などへの出前講座など、新たな側面からエイズ患者の抱える問題に関わっているとお話であった。

HIV 感染イコール AIDS というわけではなく、HIV 感染の早期発見（検査）と早期治療開始で AIDS 発症を防ぐことができるだけでなく、感染（拡大）の予防につながる事が明らかになっている。今後私たちはこれらの知識と情報を共有し、さらに啓発していくことが重要と考えられた。

平成 29 年度熊本市エイズ総合対策推進会議報告

平成 29 年 8 月 10 日（木）14 時より 熊本市総合保健福祉センターにて平成 29 年度熊本市エイズ総合対策推進会議が開催された。

局長挨拶があり、次に会長挨拶を兼ねて、松下修三先生（熊本大学エイズ学研究センター教授）より、「エイズ・HIV 感染症・現状と課題」という演題で講演があった。内容は、抗ウイルス療法の進歩により、HIV 感染症の長期にわたる発症阻止が得られるばかりでなく、新規感染を阻止することができるようになった。治療が予防になる時代、我が国における診断・治療の現状は、新規感染例を減少させるには十分でなく、HIV 感染例の早期発見・早期治療開始のため、検査機会の拡大を推進すべきである（自己検査、郵送検査、病院内検査の促進；PITC 検査＝医療者主導による HIV 検査およびカウンセリング、opt-out 検査など）。ハイリスク軍への、暴露前予防を柱とした感染予防キャンペーン、コミュニティセンター事業の拡大などが必要である。というものでありました。

その後、松下先生の議長のもと、議事が進行された。

1) エイズの現状と課題

昨年同様横ばい状態だが、平成 28 年報告数 全国（HIV 感染者：1003 名、エイズ患者：437 名）
累計；27,370 名

熊本県（HIV 感染者：14 名、エイズ患者：5 名）

熊本県の昭和 61 年から総数は HIV 感染者：91 名、エイズ患者：62 名になっています。

また、クラミジア、性器ヘルペス、尖形コンジローム、淋病は、H12 と比較すると約半数に減少して横ばい状態です。

梅毒は、全国的には増加傾向、本市においては昨年 13 例とのことです。

2) 熊本市エイズ対策事業計画

- 1 正しい知識の普及啓発
- 2 相談検査体制の充実
- 3 医療体制及び生活支援体制

3) 平成 25～29 年度 HIV 感染及び性感染症の予防対策について

① HIV 抗体検査数の増加；目標 1750 件

平成 26 年度まで増加傾向に転じていたが、27 年には減少、28 年は 4 月の地震が発生した影響で検査数が半減した。（平成 28 年 4 月 15 日～8 月 31 日まで検査休止、臨時検査 4 回実施、9 月以降受け入れ総数を制限しながら継続。）本年 6 月末現在、検査数 596 件であり、新規感染者・患者が増加しており、これまでの啓発等の効果が出ているものと評価できる。

② 性器クラミジア感染症報告の減少；目標 324 件

- ・性感染症予防教育の実施
- ・高校、専門学校への講師派遣時に感染症対策課職員が熊本での現状と検査について講話

4) 平成 30～34 年度 HIV 感染および性感染症の予防対策（計画案）

目的；HIV 及び性感染症の新規感染を減少させる。

成果指標及び目標値

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1、HIV 個体検査数の増加 | 平成 34 年度の検査数 1780 件 |
| 2、性器クラミジア感染症報告数の減少 | 平成 34 年度の報告数 324 件 |
| 3、梅毒報告数の減少（新規） | 平成 34 年度の報告数 10 件 |

取り組み方針

- ① 普及啓発；広く市民に対し、知識と意識の向上を図り、検査体制の周知を行う。
- ② 検査体制の整備；市民にとって利便性の高い検査体制を構築する。また、特にリスクの高いと考えられる層（青少年、MSM、性風俗従事者・利用者等）が利用しやすい体制とする。

各団体の取組についての意見交換の際、本会の感染予防の取り組みを報告し、市民への啓発の協力として本会会員にエイズ相談室パンフレットの配布を申し入れた。

以上報告です。

田中弥興

■熊本県栄養士会

(1) 役員会での会議内容報告

(2) 12/1 世界エイズデーポスターの勤務先掲示板へのポスター掲示

(3) 2/17 栄養士研修会でのパネル展示 およびパンフレットの配布

※(3)について

平成30年2月17日 熊本市地域事業部・福祉事業部合同研修会が開催され、研修会参加者約110名に対してパネル展示を行いました。

研修会の冒頭に熊本市地域事業部でのエイズ総合対策推進活動としてパネル展示をしていること、パンフレットの配布について説明を行いました。



【教育・青少年団体】

■熊本市青少年健全育成連絡協議会

- (1) 2回参加して、こんなに医療関係それに対する対策がこんなにすすんでいる事がよくわかり恥ずかしい思いです。もう一回初心に願ひ啓発キャンペーンの取り組みを進めたい
- (2) 一般の病気(肝臓、糖尿、癌等)の検診のような検査が、出来ればいいですね。

■熊本県高等学校保健会

- (1) 熊本市地区養護教諭部会にて、平成29年度エイズ総合対策推進会議の報告を行った。また、熊本市保健所感染症対策課泉様にもご出席いただき、市保健所の取り組みの案内や感染症の現状報告をしていただいた。
- (2) エイズ・性感染症予防啓発ポスター等の掲示を各校で行っている。



- (3) 各校で行う保健講話(性教育講演会)等で医師等を招いての講演を通して、エイズ・性感染症等についても触れていただいた。また、熊本市の出前講座を活用して講師に来ていただいた学校もある。
- (4) 文化祭での取り組み(市保健所の協力により)
 - ・エイズデーキャンペーンの実施と大学生によるピアエデュケーション
 - ・巡回パネル展 等

【人権擁護関係】

■熊本市民生委員児童委員協議会

民生委員個人、各単住民児協、各区の民児協などの立場で、エイズ、性感染症対策にかかわる行事、研修会等に参加する事はあると思いますが、市民児協独自の企画による取り組みは行っていません。

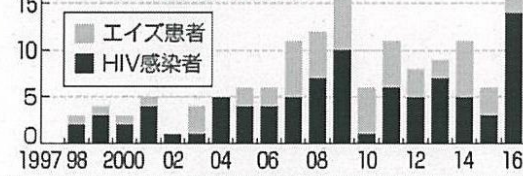
活動の対象が高齢者中心となってしまう現状の中で取り組みが難しい面もあるのですが、他方児童委員という立場から考えれば、何らかの取り組みを考えていくことも必要とは思いますが。今後の課題として検討していきたいと思っています。

【報道関係】

■熊本日日新聞社

さまざまな機会を捉えて、エイズの実態や野望のための新聞報道を続けている。
またエイズ治療の進展についても紹介している。

過去20年間の県内のエイズ患者・
HIV感染者報告数推移



2016年に県内で
判明したエイズ患者と
エイズウイルス(HI
V)感染者は、前年よ
り13人多い計19人で、
過去最多だったことが
7日分かった。同日の
熊本市エイズ総合対策
推進会議で、市感染症
対策課が報告した。

エイズ患者と感染者 県内19人過去最多

16年

同課によると患者・感染者の増加は2年ぶ
り。内訳は患者5人、
感染者14人で、性別は
男性17人と女性2人。
40歳以上が11人と過半
数を占め、30代と29歳
以下がいずれも4人だ
った。感染経路は、同
性間の性的接触が13人
で、異性間の性的接触
が6人だった。

患者・感染者の増加
について、同推進会議
会長の松下修三・熊本
大エイズ学研究センタ
ー教授は「リスクのお
人たちに、保健所で
安心して検査を受けら
れることが浸透した結
果」と話している。

熊本市分のHIV抗
体検査数は前年比54
3件減の856件で、
エイズに関する相談数
も578件減の892
件だった。熊本地震に
よる保健所の被災で、
4月中旬から8月にか
けて窓口を閉鎖した影
響という。

市は病気の早期発見
に向けて、抗体検査数
の数値目標を過去最多
だった1780件に設
定。広報強化などで達
成を目指す。

(岩瀬茂美)

(熊本日日新聞：朝刊、掲載日：2017/02/08、面名：四社 ページ：022)

117

熊本市感染症対策技術参事

泉 真理子さんに聞く

学校や職場など社会生活の中でⅠⅣに感染することはありまないので、感染を過度に心配する必要はありません。感染経路は限られていますから、予防は可能です。しかし、予防しないうちに性行為の経験があれば、誰れでも感染する可能性があります。また、感染予防のためにも、検査を受けることが重要です。

「早めに検査を受けて感染を知ること」で、エイズの発症を抑えたり、進行を遅らせたります。

無料・匿名 採血のみ

無料・匿名で受けられるエイズ検査を若者らにPRするチラシ。熊本市保健所とゲイ当事者サークル「Safety blanket」が作成した

ことができません。いったん感染したHIVは身体から取り除いてしまつことはできず、通院や服薬には困難が伴つこともありますが、多くの方が治療しながら働き、生活が続けています」

――本市では、エイズ検査はどのように実施していますか。

「通常検査と即日検査があり、どちらでも平日の月曜から金曜です。通常検査の結果は1週間後以降にお伝えしますので、再度来所していただきます。即日検査の結果は当日、約1時間後にお伝えできます」

――検査を受ける手順は。

「まず予約が必要ですが、ご本人が「電話で『通常検査（即日検査）の予約をしたい』とお話しください。エイズ、HIVと言ふ必要はありません。匿名ですので、名前や住所も必要ありません。即日検査はメールでも予約できます。検査希望日の1週間前まで受け付けています」

――来所での相談も予約をお願いします。

「平日に実施しています。電話での相談は平日の午前8時～午後5時までです」

――検査はいつ行いますか。

「指定の日時に熊本市保健所（中央区大江、ウェルバルくまもと）へお越しください。相談希望の人にぜひこの通院と」

案内します。相談室や待合室は個室です。検査は少量の採血だけで、15分程度で終わります」

「HIVに感染している場合は、約1カ月程度で抗体が検出されます。感染の機会から3カ月以上経過して抗体が検出されなければ感染を否定できます。感染のリスクが高い方や、不安な強い方には、感染の機会から1カ月たったころに一度エイズ検査を受けて、3カ月以上経過してから再度検査を受けることをお勧めしています」

――検査に不安がある場合は。

「まずは相談してください。適切な治療を受けることで、パートナーへの感染率が低くなることで、ことが最近の研究で分かっています。大切な人への感染を防ぐためにも、勇気を出して検査を受けてほしいと思います。保健所で感染が分かったときは十分なカウンセリングの上、専門の医療機関をご紹介しますので、安心して利用してください。もちろん、感染の不安を持たなくていいように、きちんと予防することも重要です」

――エイズ検査の予約・相談

096（364）3189＝熊本市保健所 本市感染症対策課。メール kumamoto@city.kumamoto.lg.jp



◇いずみ・まり◇ 2010
熊本市感染症対策課勤務。性的
の支援団体」とともに拓くLGB
の会々までも「事務局も務める。

(熊本日日新聞：夕刊、掲載日：2017/08/16、面名：シニア ページ：005)

熊本大開発

順天大学大学院生命科学研究部の大塚雅巳教授と同大学の木村孝一教授とセントラル大学の藤田孝一教授との共同研究で、エイズウイルスが、エイズの発症につながる可能性のある新たな宿主細胞に感染する能力を有していることが明らかになった。エイズウイルスは、免疫細胞であるCD4+T細胞に感染し、細胞を破壊することで免疫機能を低下させる。この研究は、エイズウイルスの感染メカニズムを明らかにし、新しい治療法の開発に役立つ可能性がある。研究結果は、*Journal of Virology* に掲載された。

2020

研究を担った博士課

程3年の立石大さんらによると、「リザーバ

細胞内に潜伏して生き

延びるウイルスが標
的。細胞レベルの実験

で、ウイルスの一部と結合する新開発の化合物

物「L-HIPPO」
を使った。L-HIP

POには、ウイルスが

を防ぐ働きがあり、ウ

イルスをリザーバー内に閉じ込めることに成

功。閉じ込めたウイルスごとリザーバーを細

胞死（アポトーシス）

これまでもリザー

ハリー内のウイルスを活

(熊本日日新聞：朝刊、掲載日：2017/08/23、面名：二社 ページ：026)

【ボランティア団体関係】

■熊本市食生活改善推進員協議会

- (1) 熊本市食生活改善推進員協議会、理事会にて会議の報告。
- (2) 配布頂いたポスター提示とチラシ配布の協力。
- (3) 熊本市で行われている出前講座より「エイズに関する」題材を取り入れてもらえるよう協力の依頼。

■Safety Blanket （詳細は、別冊2で紹介しています）

(1) 今年度活動

29年度は、連絡会や担当者間のミーティングを重ねながら、勉強会兼交流会の開催を軸に取り組みを行った。（連絡会4回、勉強会2回、茶話会4回、他SNS等を活用した打合せ等）

また、今後、若い世代を対象とした新しい取り組みとしてインスタグラムなどSNSを活用した啓発を行うための準備を行った。

(2) 来年度活動

引き続き、熊本市内外の保健所や熊本大学医学部附属病院と連携し協力いただき、啓発活動や勉強会の実施を行っていく。

エイズに関する人々の関心や医療の現場もどんどんと変換しているので、いま、届く啓発は何なのかを考えながら柔軟な活動をしていきます。

新しく予定しているものとしては、SNSのインスタグラムを利用した啓発活動、情報の発信を計画しています。

若年層や、今まで関心をもっていなかった層へのアプローチとして活かしていければと考えています。

Ⅱ 各委員からのご意見

ご意見なし